



# 文の構造

▼指導ページ P 4～17▼

☆指導のポイント☆

- (1) 主語……「何が」「何が」にあたる部分
- (2) 述語……「主語」を説明することば
- (3) 修飾語…「主語」または「述語」を説明することば

板書例	
<p>基本問題 1・2・3・4</p> <p>はじめに 「どうする・どんなだ・なんだ」 〓 「述語」をさがす</p> <p>次に 「が・は」に注目 ↓ 「主語」を見つける</p> <p>さらに 「主語」「述語」を説明することば ↓ 「修飾語」を確認</p> <p>「修飾語」の説明することば</p> <p>↓ ①直後の部分を説明する場合</p> <p>↓ ②直後以外の部分を説明する場合</p> <p>〓 その語の直前に置いてみて、意味が通るか確認</p> <p>基本問題 7</p> <p>「実感される」 ↑ 「何が」 〓 地球ができてからの生物の歴史からみると人間の存在する時間がとても短い</p> <p>練習問題 1</p> <p>問二</p> <p>「最初から」有名になることを目指すなんて、順番が逆だ</p> <p>→ 「主語」「述語」の関係を探す</p> <p>「有名になる」文節が分かれることに注意</p> <p>問四</p> <p>「若者たちは毎日の生活から失敗、秘密にしておきたいようなことまでを律儀に書き続ける。」</p> <p>← 次の段落に着目</p> <p>→ やって毎日のすべてをどこかのだれかに読まれ、知られることで、「私はたくさんの人に関心を持ってもらっている」安心を得ているのではないか。</p> <p>→ 問いかけている</p> <p>← この部分をまとめる</p> <p>← たくさんの人に関心を持ってもらっているという安心感を得るため。「なんのため」と聞かれているので、文末は「ため。」にする。</p>	<p>指導内容・留意事項など</p> <p><b>基本問題 1</b> (P8)</p> <p>「主語」を示す「が」「は」に注目。                  「述語」→「主語」について「どうする」「どんなだ」「なんだ」にあたる語                  「修飾語」→「直後」の語を説明する場合 → この場合を最初に考えさせる                  → 次に「はなれた語」を説明する場合を考えさせる                  = 「修飾される語の直前に置いて意味が通るかによって確認</p> <p><b>基本問題 2</b> (P9)</p> <p>&lt;解法の手順&gt;                  「述語」を最初に見つける → 次に「主語」をおさえる→それら以外は「修飾語」 → 説明する語が、さらに次の語を説明する → 繰り返し説明がおこなわれる → 最終的に、「主語」か「述語」を説明する</p> <p><b>基本問題 7</b> 問一 (P13)</p> <p>「分けられています。」が述語になるので、それに当たる主語を探させる。主語は「～は」にあたる。</p> <p>問二 余計な修飾語を取り除いて意味が分かる語を探させる。</p> <p>問三 直前の文章に注目する。「その状態」が指す部分が何かを探させる。「その」は指示語なので直前に書いてある。</p> <p>問四 設問中の「実感」に着目。本文中の25行目に「実感」がある。その直前部分をまとめさせる。</p> <p><b>練習問題 1</b> 問一 (P14)</p> <p>接続詞は文章の前後でどう変化しているかで判断。</p> <p>問三 文節に分けてから、主語と述語を探させる。主語「日記サイトが」、述語「ある」。</p> <p>問五 直前の文章に注目する。前の段落に快感や安心感とあるので、「満足感」と間違えないよう注意。</p> <p>問六 筆者が最も言いたいことはたいてい最後の段落に書いてあるので、そこに注目。</p>

2

説明文・論説文

文章の流れ

▼指導ページ P 18 ~ 31 ▼

☆指導のポイント☆

- (1) 説明文・論説文＝「接続語」「指示語」に注意して読む。
- (2) 話題 ＝ 題意名・筆者の問いかけ・繰り返し使われる語句(キーワード)に注目してとらえる
- (3) 文章の流れ ＝ 「序論＝話題や問題提示」「本論＝具体例や結論にいたる理由を述べる」「結論＝問いに対する答えや筆者の考え・主張」

板書例

**基本問題1**

【導入部分】 私たちが聴いて気分がよくなることばの共通点  
 ≡ 誤解の余地が残されている

【提示】 奇妙に聞こえるでしょう？  
 ≡ 誤解の余地が確保されている  
 ≡ コミュニケーションをしている実感をもたらしてくれる

若い人たちは 非常に会話の語彙が貧困 ↓ 十個くらいの単語だけで延々と会話  
 ↓ 意思疎通できつありませんね

何を言っているのかお互いの心の中がわかっているとはとても思われない

← わざと誤解の幅があるように、コミュニケーション

↓ コミュニケーションの「王道」

「不確かで曖昧な位置」にとどめておく ↓ コミュニケーションとして成立

「自己表現」の強制に対する、子どもたちの側からの「ノー」

↓ ある種の失語症をみずから進んで病むこと ↓ コミュニケーションを回復

**基本問題2**

日本の昔話 ≡ 例・桃太郎  
 日本の昔話に多くの老人が登場 ≡ 老人の知恵・力 ≡ 非日常

ヨーロッパの昔話  
 自我の確立・勇ましくたくましい男性 ≡ 理想の男性像

桃太郎の話 ≡ 西洋の英雄像 + 若者の孝行  
 特異な話 ≡ ヨーロッパの話に共通点

← 筆者の考え ≡ 桃太郎の話が広まった理由

≡ 日本の近代化富国強兵を急ぐ日本が、話に注目 ≡ 軍閥が喜ぶ話

**練習問題1**

【導入部分】 遺伝子 ≡ 自分の力がおよばない

【話題】 コウテイペンギン ≡ 最果ての地にくらす

皮膚 ≡ ふわふわの綿羽 + 長い羽毛 ≡ 強風に耐えられる ≡ 突然変異

産卵・子育て ≡ もっとも寒い時期に生殖行為

↓ 雄：餌を食わず卵をあたたためる ↓ 雌：遠く離れた海で餌

≡ 餌をもって雛のところにもどる ↓ 「生き残ったもの」の習性

↓ 子：四年後餌を取りに海へ ≡ 半数以上が死 ↓ 神の摂理

潜水能力 ≡ 深く潜ることができる体のつくり

↓ 生存能力を身につけたものが増えて進化

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<b>基本問題1</b> 定番 (P20)	<p>問一 [1] の前後で述べられていることが変わっているので逆説を選ばせる。 [2] の前で作者の意見を投げかけ、その答えを [2] の後で述べているので、「だから」を選ばせる。</p> <p>問二 指示語なので、直前に注目。「これは、みなさんも認めてくれると思います。」に対し、「十代の若い人たちは、非常に会話の語彙が貧困です。」になる。</p> <p>問三 ②の段落の前と後で「大人の」と「若い人」に分かれていることに気づかせるようにする。</p> <p>問四 「退行」の意味がわからなくても、内容から判断出来るようにする。「たしかに」の直前にあることから、「子どもたちが限定した語意でしかコミュニケーションできなくなった」という意味だとわかる。</p> <p>問五 次の段落に着目。</p>
<b>基本問題2</b> (P22)	<p>問一 直前の部分に注目。「老人が好き」＝「老人が話の中に登場する機会が多い」という話の流れに着目。</p> <p>問二 * の前の部分＝「援助」について記述されている。「逆」に着目。</p> <p>問三 [1] 後の部分に前の内容を付け加える＝「そして」 [2] 話題の転換＝「ところで」</p> <p>問四 指示語の指示する部分を見つける一つのパターン＝直前の部分「37・38行目」に注目。</p> <p>問五 「日本」の近代化の中で「軍閥」が関心をもつ→「軍閥」が喜ぶ話。51～53行目注目。</p>
<b>練習問題1</b> (P24)	<p>問一 15～25行目＝「羽毛」のこと。26～52行目＝産卵と雛の養育。53行目～最後＝潜水能力。</p> <p>問二 [1] 1行目に述べた具体例を後に示す＝「たとえば」 [2] 34行目の内容から引き続き起きることを付け加えている＝「そして」 [3] 前後の内容が対立の関係＝「しかし」</p> <p>問三 「一番寒い季節」に産卵→「夏の盛り」に雛が独立。47行目注目。</p> <p>問四 直前の42・43行目注目。</p> <p>問五 「コウテイペンギンの住む場所」についての記述に注目。「過酷」な土地＝9行目に着目。</p>

3

物語文 場面と情景

▼指導ページ P 32 ~45▼

☆指導のポイント☆

(1) 場面を読み取る

→5W1Hに着目→「WHAT」＝「問題提起・事件」

「WHEN」＝時代・季節・月日・時刻 「WHICH」＝選択 「WHO」＝だれが・登場人物の言動・行動

「WHERE」＝できごとが起こった場所・場面 「HOW」＝できごととの関係

(2) 情景を読み取る→描写・感覚・登場人物の気持ちを表す文に注意。推理することも必要。

板書例

練習問題2		基本問題2		基本問題1	
兄と高台に星を見に行く (回想) 父と兄、ぼく↓望遠鏡で月・星を見る (再び今の場面) 兄と高台で星を観察	場面 「ぼく」の気持ち	自分は「三人姉弟」の真ん中 母に甘える諒 おつかいをたのまれる 諒の機げんをとるためにメロンの話を母が持ち出す	場面 紀恵の気持ち	駅の改札口 帰りの電車 うそをついて誕生会を早く帰る 行きの電車↓友人と会う 家を出かける 吉田君に誕生日によばれて 電車に通学していないテル	場面 テルの気持ち
星への自分の知識↓変化 家族も変わった↓父の死 変わらぬ兄と星を見る ↓父をなつかしく想う	兄と星を見る楽しみ	親に他の姉弟のように「かわいい」と思われていない 母は諒ばかりかわいいがる ↓さびしい 自分だけに仕事↓不満 自分の誕生日が忘れられている ↓家族への反発	一人旅にならない↓残念 一人で電車に乗りたいたい 窓から入る風⇨飛行機みたい ↓たのしい・もつと乗りたい 不安↓混乱	一人旅に緊張や期待 一人で電車に乗りたいたい 電車に乗ることができるとなった気分	

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<b>基本問題1</b> (P34) 定番 問一 問二 問三 問四 問五 問六	「その」は指示語なので、直前から探させる。 8行目に注目。9行目以降に「テル」の「一人旅」の話が展開していくことを読み取らせる。 二つ目 電車に乗るという行動に注目。41行目「乗り込む」に着目。 三つ目 気持ちの変化＝「楽しむ」→「こまった」への変化に注意。 37・38行目から「大人の気分」になったテルの母親の心配する言葉への気持ちを想像させる。 「煙草をすう」という行為は大人にだけ許された行為に注意。37・38行目に注目。 電車の中での話→41～59行目に着目。テルが電車の中で自分の想像の世界に入り込んだ部分に注意。 文章中の言葉を使って解答することに注意。63・64行目がどんなことか具体的に記述させる。
<b>基本問題2</b> (P36) 問一 問二 問三 問四 問五	8～10行目に着目。学校から帰った「紀恵」、仕事から帰った「母」から「夕方」を推量。 直前の部分「同じ」＝「同じようにかわいい」を想像させる。「姉」や「弟」と比べて「自分＝紀恵」は「かわいい」とは親から思われていない、と考えていることを読み取らせる。 24行目に注目。 「紀恵」にショックをあたえた一言を読み取らせる。 A 自分が言われるはずの言葉＝「おめでとう」 B 「母」から頼まれたこと＝「おつかい」 C 45行目の「母」の「紀恵」を責める言葉＝「ひなくれ」
<b>練習問題2</b> (P40) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	過去のことを思い出している部分＝27～55行目に注目。 「本当」ではない夜＝17行目。その逆の状況を読み取らせる。 「本当」の夜に見える星を想像。慣用句「判でおしたように」の意味ではない事に注意。 「ぼく」が星を見た最初の気持ち＝45行目＝「期待」→その後「期待外れ」。 身近な話題で考えられる「無限」を超えた「無限」→頭痛の原因。 直前の部分に描かれた「夜」を指している。 「父・兄と初めて星を見た時」と比べて「増えたもの」＝59行目注目・「なくなったもの」＝15行目注目

4

物語文 気持ちと人物像(1)

▼指導ページ P 46 ~59▼

☆指導のポイント☆

「会話」・「行動・動作」・「登場人物の外見」「態度」から心情・性格を読み取る。

→性格(人柄・言動・様子の描写)・心情(気持ち・言動・情景描写)・変化(事件・場面・心情)から「推測」する。

板書例

練習問題1		基本問題2		基本問題1	
権太の罰当番の掃除を手伝う	机のふき掃除 ↓しっかりとした権太	おぼれそうになった三人 ↓妹を置いて自分だけ岸へ泳ぐ	岸で「わかい男」に助けを求める 「わかい男」が妹を助ける	先生の部屋 目をさます	次の日 いろいろな学校へ行く
先生の机掃除、後回し	先生に見つからないように帰る 「しかられても、やることはやる」 権太の発言	妹は助かった後、「わたし」をさける	妹がかわいそう↓でも、自分が大切 生きたい	学校 先生が「ぼく」の手をとる	先生の部屋 先生が強く握手
先生に「しかられても、やることはやる」	権太の発言	「わたし」の気持ち	よかった	学校から「ぶどう」を分けられる	先生から「ぶどう」を分けられる
「耕作」の気持ち	見つかって先生に「しかられたくない」 わからなければ手をぬく自分の考え はずかしい 先生への反発	妹にうらまれても仕方ない ↓さびしい	とまどい ↓うれしい ↓先生のやさしさを感じる	「ぼく」の気持ち	「ぼく」の気持ち

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P48)	「どうしても～ない」で打ち消しを強調。 直前の部分 = 7行目に注目。 学校でみんなからどうあつかわれると思っていたのか = 31 - 33行目に注目。
問一	学校でみんなからどうあつかわれると思っていたのか = 31 - 33行目に注目。
問二	問三
問三	問四
問四	問五
基本問題2 (P50)	問一
問二	問三
問三	問四
問四	問五
練習問題1 (P52)	問一
問二	問三
問三	問四
問四	問五
問五	問六
問六	問七

板書例

<p>①</p> <p>【話題】「役不足」の意味</p> <p>役をひきうける場合⇨気配りを表現する言葉として使う</p> <p>本来の意味⇨役を人に頼む場合に使う</p> <p>↓ 筆者の感想⇨意味も変わってくる</p> <p>⇨</p> <p>【次の話題】「百聞は一見に如かず」の意味</p> <p>⇨</p> <p>高校生の考え⇨「視覚と聴覚の情報の確かさ」という見方で考える</p> <p>⇨</p> <p>本来の意味⇨「伝聞より実際の体験」の方がものがよくわかる</p> <p>↓ 筆者の感想⇨テレビがある現代では、意味も変わる</p> <p>⇨</p> <p>筆者の主張⇨美しい日本語を守る⇨生活文化を次の世代に伝えることが大切</p> <p>⇨</p> <p>⇨ 日本語の乱れ⇨教育の問題</p>	<p>②</p> <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">場面</td> <td style="text-align: center;">「恵美」の気持ち</td> </tr> <tr> <td>                 夕方近くの公園                  恵美が由香に交通事故の責任を責める                  ⇨                  由香が泣き出す                  ⇨                  恵美の家の晩ごはん                  由美のことが思い出される                  ⇨                  恵美は由美に電話をかけられない                  ⇨                  雨の日・恵美の家・登校前                  由香が大きな傘をもってむかえに来た             </td> <td>                 由香にひどいこと言った                  ↓自分の言ったことは嘘                  ⇨打ち消したい気持ち                  ⇨                  自分がわるかった⇨つらい                  ⇨                  あやまる勇気がでない                  ⇨                  由香の真剣な気持ちを感じる                  ⇨                  さらに、心がいたむ             </td> </tr> </table>	場面	「恵美」の気持ち	夕方近くの公園 恵美が由香に交通事故の責任を責める ⇨ 由香が泣き出す ⇨ 恵美の家の晩ごはん 由美のことが思い出される ⇨ 恵美は由美に電話をかけられない ⇨ 雨の日・恵美の家・登校前 由香が大きな傘をもってむかえに来た	由香にひどいこと言った ↓自分の言ったことは嘘 ⇨打ち消したい気持ち ⇨ 自分がわるかった⇨つらい ⇨ あやまる勇気がでない ⇨ 由香の真剣な気持ちを感じる ⇨ さらに、心がいたむ
場面	「恵美」の気持ち				
夕方近くの公園 恵美が由香に交通事故の責任を責める ⇨ 由香が泣き出す ⇨ 恵美の家の晩ごはん 由美のことが思い出される ⇨ 恵美は由美に電話をかけられない ⇨ 雨の日・恵美の家・登校前 由香が大きな傘をもってむかえに来た	由香にひどいこと言った ↓自分の言ったことは嘘 ⇨打ち消したい気持ち ⇨ 自分がわるかった⇨つらい ⇨ あやまる勇気がでない ⇨ 由香の真剣な気持ちを感じる ⇨ さらに、心がいたむ				

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>①</p> <p>(P60)</p> <p>問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p> <p>問六</p> <p>問七</p> <p>問八</p>	<p>前の部分の内容と後部分の関係を読み取らせて、接続語を考えさせる。</p> <p>「16字」で「書きぬく」ことがヒントとなる。「正しく」に着目。20行目注目。</p> <p>②=一文中で「だれが(は)」にあたる語を見つけさせる。</p> <p>③=直前の「側が」が主語。「使う」のは「人」であって「言葉」ではないことに注意。</p> <p>「役不足」の本来の意味=19行目で述べられている場合の「逆」を読み取らせる。</p> <p>高校生の論点の視点が「違う」と筆者は述べていることに注意。50行目に注目。</p> <p>「人から伝え聞いた話=伝聞」=「テレビ・ラジオの情報」が「百聞」の本来の意味にあたることを読み取らせる。</p> <p>58行目に注目。筆者の主張は「美しい日本語を守る」→「ことばの変化と守ることを考える」→「生活文化を世代を超えてつたえることが大切」→「その教育が大切」という点を読み取らせる。</p> <p>ア=本来の意味で使い人が増えている=×</p> <p>イ=この点は話題にしていない=×</p> <p>ウ=高校生の使い方が正しいとまでは述べていない=×</p>
<p>②</p> <p>(P62)</p> <p>問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p> <p>問六</p> <p>問七</p> <p>問八</p>	<p>(1) 場面転換→場所・時間に注目。</p> <p>(2) 最初～27行目の中で「時」を表す語に注意。27行目に注目。</p> <p>直後の「恵美」の言葉から、「恵美」の話を真剣に受け止めた「由香」の様子を読み取らせる。</p> <p>「恵美」の自分の言った言葉を打ち消してしまいたい気持ちに注意。22行目注目。</p> <p>51行目に注意。19・20行目に着目。</p> <p>59行目から「エ」は×。「ありがとう」にかわる「恵美」の気持ちを表す言葉を想像させる。</p> <p>「由香」は「恵美」の事故原因を自分の責任と感じていることを読み取らせる。その上で、子どもなら2人は入ることのできる「大人用の傘」を持って「恵美」の家に「雨の日」に迎えにきた「由香」の気持ちを押し量らせる。</p> <p>「恵美」の「由香」への本当の気持ちを描いている部分を探させる。11行目注目。</p> <p>「恵美」が「由香」に「言う必要がある」と思って、勇気がわかなかって言えなかった言葉=41行目に注目。</p>

☆指導のポイント☆

- 詩や文学、論説文、説明文で用いられる表現技法について具体的な用例を通して学んでいく。
- 「特別な表現技法」は、「登場人物が最も感動したことの表現」や「筆者の強く主張したい点」に使われる。
- 「特別な表現技法」を手がかりとして、心情や要旨、主題をとらえることができる。

板書例

**練習問題1**

道路標識の個性的な写真 || 「玲」が気に入って写真とる

友達 || ひどい写真 || 「玲」 || 悩む

← 「類」の気持ち ← 「もの」をつくること || 観客と対話

← 「玲」の気持ちを大事にした || 「玲」に伝えなかった

**基本問題1**

五・六歳のころの記憶 || 強く残る記憶

↓ 人生の記憶の多くの部分

|| 「じゅうたんのような水藻」がゆれている感じ

● 夕日のこと || 台湾ですごした地域

|| 地平線へ夕日が沈んでいくところが見える地域

|| 子どものころの遊び ↓ 夕日の思い出

**基本問題2**

ぼくは学校から帰ったばかり || 安堵感

ぼくは勉強机の上に学校のかばんをどっさと投げつけるように置いた

|| なんてだよ、という抗議したい気持ち

母は玄関の外でドアをあけたまま立っていた

← エンジンをかけてから「どこに行きたい？」と母がきいた

← ぼくはどう答えたものかと、いそがしく考える

← 「どうだった？ 学校」母がきいた ↓ ふつう、とぼくは答える || 母は不満そう

← ぼくはどう答えばいいのか。いままでうまく答えられたことはない

|| 学校のなにを母はききたがっているのか(わからない)

● 父親の左手の人さし指 || 傷跡 || 父親と散歩 || 日課

↓ 握って歩いた人さし指 || 「吊革」みたい || 「安心」

↓ 「自分だけの父親を感じる」 || 強い思い出

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<b>基本問題1</b> (P70) 定番 問一 問二 問三 問四 問五	前の内容に付け加えていることに気づかせる。 「感じ」「ようす」「風」「荷車」「こと」「具合」「味」→文が体言で止められていることに着目。 この疑問に答える表現 = 24 行目注目。 「水藻」という語に着目。3・4 行目に注目。 「~のように」を使った表現に注意。 61・62 行目に注目。
<b>基本問題2</b> (P72) 問一 問二 問三 問四 問五	冒頭から①までのぼくの気持ち、場面から判断。 擬人法…人ではないものを人にたとえる 体言止め…行の終わりを体言で止め、余韻を残す 前後の文章から判断。2つに共通する接続詞を探すので、両方にきちんと当てはまるものを選ばせる。 直喩は「~のようだ」「~みたいだ」を使う表現なので、それが用いられている部分を探させる。 傍線部のあとに注目する。最後から2つ目の段落で、母が言っていたことが書かれている。最後の段落はそれに対するぼくの気持ちが書かれているので、そこをまとめる。
<b>練習問題1</b> (P74) 問一 問二 問三 問四 問五	「玲」にとって写真にとった道路標識はどんな存在だったのかを読み取らせる。3 行目注目。 直後の「顔」という語から推量。 直後で内容を説明している。38・39 行目着目。 62~64 行目に着目。「類」が「玲」の気持ちを大事に考えていたことを読み取らせる。 「玲」の話の内容 = 「玲」の感じたこと = 「自分も忠告しようと考えていたこと」ととらえて、「玲」の話に「類」が答えた内容を、「類」の会話を整理してまとめさせる。

7

説明文・論説文 話題から要点へ

▼指導ページ P 82 ~ 95 ▼

☆指導のポイント☆

要旨(=筆者が最も言いたいこと)をまとめる=話題をつかむ→各段落の要点をつかむ(文末表現に注意)

→文・段落どうしの意味つながりを理解する(接続語・指示語に注意)→中心の段落をつかむ→要旨。

板書例

<p><b>練習問題1</b></p> <p><b>導入</b> 自然の生態系の仕組みにのらない「ごみ」の増加 ↓地球の生命に危害</p> <p><b>話題</b> 生態系にのらない「ごみ」の問題の解決</p> <p>① 生態系にのる物質 ↓生態系にのるようなシステムを人間がつくる ↓社会生態系システム ↓エコシステム</p> <p>② それ以外の物質 ↓生態系にのらないものを「資源」につくり変える仕組み ↓疑似エコシステム</p>	<p><b>基本問題2</b></p> <p><b>導入</b> 地球上に季節があるわけ ↓自転と公転のずれ ↓生物に適した季節に成長と繁殖 ↓子孫を残す</p> <p><b>話題</b> ●生物はどのようにして季節の変化を知るのがか ●どうやってそれに対応しているのか</p> <p><b>温度順化</b> ↓①温度変化に対応 ②季節の変化を伝える信号の働き</p>	<p><b>基本問題1</b></p> <p><b>導入</b> ↓「農業してみる」という表現 ↓おかしいと感じる人が多い ①「を」を抜かした表現でおかしくないもの ↓「を」をつけた表現が「重く」感じる</p> <p>②「お茶する」という新しい表現</p> <p><b>話題</b> ↓「名詞」の直後に「する」をつけたことば ①今までの「ことば」で言い換えのできない「ことば」 ↓「を」を抜いただけの「ことば」と違う</p> <p>②二種類 ↓名詞に「動き」の「ある場合」と「ない場合」</p> <p><b>筆者の考え</b> 「を」をとる表現が多くなってきた ↓「名詞」に「する」をつけた新しい「ことば」ができた</p>
--	--	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<b>基本問題1</b> (P84)	問一 [話題=「する」を名詞の後につけた「ことば」]に着目。「15字」でぬき出すことがヒントとなる。 問二 「理由」を読み取る設問から「～から」に着目。5・6行目に注目。 問三 「両者」とは2つの事柄を表していることに注意。直前の19～22行目注目。 問四 ③の例として「科学」を使ったことばの使い方について述べている50・51行目に注目。 問五 「若い人」に着目。「若い人」が生み出している新しい表現とはどういったものなのかに注意して読み取らせる。
<b>基本問題2</b> (P86)	問一 読み手への筆者からの「問い」に注意。 問二 「カギ」という語に注目。 問三 「話題」に関しては筆者からの「問い」に注意。四字で解答するのだから形式段落⑤の「問い」の内容をまとめた語句を形式段落⑥から探させる。 問四 形式段落⑥=「佃先生」の研究の例=「温度順化」の説明。 問五 形式段落⑦=形式段落⑥の内容に付け加えて「温度順化」について述べていることに着目。 問六 形式段落⑤～形式段落⑦の内容のまとめの文としてとらえさせる。その上で、19～21行目注目。
<b>練習問題1</b> (P88)	問一 くり返し使われている語句に注意。形式段落⑥に着目。 問二 「生態系」とは自然界にはじめから存在した仕組み。その仕組みに「のらない」内容を文中のことばを使って書かせる。 問三 [1] 「増」に対比する表現を選ばせる。 [2] 直後の「意図的」に着目。「意図しない」システムとは何かを考えさせる。 [3] 「人間のつくったもの」を表現させる。 問四 直後に着目。「エコシステム」とは何かを別の表現で述べている部分に注目。

8

物語文 気持ちと人物像(2)

▼指導ページ P 96 ~ 109 ▼

☆指導のポイント☆

「会話」・「行動・動作」・「登場人物の外見」「態度」から心情・性格を読み取る。

→性格(人柄・言動・様子の描写)・心情(気持ち・言動・情景描写)・変化(事件・場面・心情)から「推測」する。

板書例

基本問題1

- ・狭いベランダ⇨資源ゴミの置き場
- ・一週間ほど前にまるまる太った黒ネコに気づいた
- ・ツトム⇨学校から帰って一人で過ごすことが多い学校ではまるで目立たない

黒ネコ⇨ツトムの退屈を紛らせてくれる存在  
 真名⇨段ボール箱に黒ネコを素早く閉じ込めた

黒ネコ⇨段ボール箱から脱出した

↓ツトムが捕まえたネコに勘違いされた⇨悔しい

↓真名⇨やつと捕まえたのに逃げられたと逆ギレ：黒ネコ⇨性悪ネコ

↓寂しい気持ち

基本問題2

・ 亜矢⇨改札口でわたしを待っていた：ずつとおとなしそう・笑顔

・ わたし⇨改札を出て、小走りに亜矢のところまで行く

・ とがった屋根が目立つ家⇨亜矢の家  
 わたし⇨緊張↑亜矢⇨大丈夫・笑う

・ つめたい感じのひとかと思っていた⇨亜矢のおかあさんの印象

・ 若くてきれいでやさしそうだった⇨実際の印象

・ 案内された亜矢の部屋⇨図書室みたい：きれい⇨整然としている  
 ・ 亜矢の母の電話での印象⇨そっけない

練習問題1

・ オアシス⇨ただの雑種犬だと家族の誰もが思っていた(我が家の統一見解)

ぼくとばあちゃん：オアシスびいき

・ 図書室の本にオアシスが載っていた

↓同級生⇨「人の仕事を助ける犬」⇨ポーターコリー↑ぼく⇨半信半疑  
 ・ オアシス⇨よく似ていたが、少しは違いもあった

↓容姿・鳴き声⇨別の犬種の血⇨雑種

ポーターコリーの血を色濃く受け継ぐ

↓ばあちゃん⇨誇らしげ・目を細める

ぼく⇨得意な気分

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P98)	問一 直後に着目する。どんな様子と聞かれているので、文末は「～様子。」にする。主語の「黒ネコ」は①の前に書いてある点にも注意をさせる。
	問二 ②の前の「あのネコ、絶対ぼくがやったと思ったよ」という台詞に着目する。ぼくが何をしたと思っているのかを、その前から導き出させるようにする。
	問三 ③の直前で真名が話していることをあてはめさせる。
	問四 一番最後の行に「寂しい気持ちでいっぱいだった」と書いてあることに着目させる。
	問五 本文に書かれているツトムの性格についてまとめ、選択肢に書かれている内容に合うものを選ばせる。
基本問題2 (P100)	問一 亜矢は顔中を笑顔にしていることから、「心配」と「緊張」は除かれる。22行目でわたしが緊張している様子が書かれているので、それと反対の「安心」であることがわかる。
	問二 ①の直後にわたしの気持ちが描かれている点に着目させる。「亜矢のおかあさんのことを思い出して」とあり、その更に後に「冷たい感じのひとかと思っていた」あるので、その部分に注意させる。
	問三 わかりやすい比喩表現は用いられていない点に注意をさせる。
	問四 27・28行目で亜矢のおかあさんに対する印象が書かれている部分に注目させる。
	問五 わたしの言動から、わたしの人物を推測させ、選択肢に合うものを選ばせる。
練習問題1 (P102)	問一 [1] =前後の内容が反対になっていることを、 [2] =前後が自然な流れになっていることを注目させる。
	問二 「なぜ」と聞かれているので、文末は「～から。」にする。また、「半信半疑」という言葉に注意させる。
	問三 ②の後に「声を出すどころではなかった」とあり、更にその後に「びっくりしながら読んでいくと」とあるので、驚いていることがわかる。
	問四 ③の直後に「もちろんぼくには日英同盟という言葉の意味は分からなかったが、なんだかとても立派な称号のように思えた。」という部分があるので、そこをまとめさせる。
	問五 選択肢にそれぞれ2つの人物像が含まれているので、本文に書かれていないものに線を引かせるなどして、丁寧に解かせる。



☆指導のポイント☆

登場人物の気持ちがどのように移り変わったか→「人物の言動」「状況の変化」「でき事」に注目して把握する

板書例

④ふとんをたたむ	↓祖母 信太郎が寝かせる ↓祖母 信太郎に寝かせる
③さらに、祖母の声	↓祖母 信太郎に目を覚ました ↓祖母 信太郎に目を覚ましたが腹を立てる ↓祖母 信太郎に目を覚ました
②また、祖母の声	↓祖母 信太郎に目を覚ました ↓祖母 信太郎に目を覚ました
①六時過ぎ	↓祖母 信太郎に目を覚ました ↓祖母 信太郎に目を覚ました
法事の朝	↓祖母 信太郎に目を覚ました ↓祖母 信太郎に目を覚ました
法事の前夜	↓祖母 信太郎に目を覚ました ↓祖母 信太郎に目を覚ました

練習問題1

●「サアカス団のテントのかけにたがっている馬」  
↓「かわいそう」→「ぼく」と同じ「怠け者」にちがいない  
●「馬がサアカスに登場」  
↓「かわいそう」→「親方をにくむ気持ち」  
●「馬が曲芸」  
↓いきいきした馬 一座の花形 明るい気持ち  
↓馬の曲芸に引き込まれる → 「夢中」になっている自分  
↓自分も何かできるかもしれない → 「希望」

基本問題2

↓「笠原」「東井」の迫力あるにらみあい  
↓東井が笠原に「やる気がないなら野球部をやめろ」  
↓笠原「東井」の迫力あるにらみあい  
↓笠原の家へ行く 野球部員が中川先生のことばを受けて笠原の家へ  
↓中川先生 笠原の自分勝手なことを許さない  
↓笠原が野球部の練習を無断欠席

基本問題1

↓笠原 〓キャプテンの選出にもれる  
↓怒り 〓部員への暴力 〓恐怖支配崇拝者 〓東井にコンプレックス  
↓東井 〓札幌からの転校生  
↓さっぱりとした性格・体格も大きい・腕っぷしも強い・弁もたつ

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P112)	問一 「顔」を赤くしてまわりの者をにらみつけるという行動から「怒り」の気持ちを読み取らせる。 問二 「笠原」と「東井」との違いを描いている部分に着目。「引け目＝コンプレックス」に注目。 問三 「～と。」からその前の部分がぼくたちが「笠原」に伝えたことだと理解させる。
基本問題2 (P114)	問一 形式段落③から「ぼく」は「その馬」に自分を重ね合わせていることを読み取らせる。 問二 直前の「何の理由」もないままにサアカスを見に来たことから、「ぼく」の気持ちを推量させる。 問三 「その馬」への評価が変わったことに着目。 問四 「気がついた」に着目。「馬」の曲芸を見て「ぼく」の気持ちは「明るく」なったことに注目。「ぼく」が今までにない「自分」に気がついたことを読み取らせる。 問五 「馬」は一座の花形→「ぼく」も何かできるかもしれない→「希望」がうまれる。
練習問題1 (P116)	問一 ①の次の祖母の会話から「寝る」のを信太郎に促していることを読み取らせる。 問二 祖母の信太郎への会話に注目。 問三 「様子」という語に着目。③の後に、信太郎は「～様子」を見せたと描かれていることに注目。 問四 「書きぬく」ことがヒントとなる。起きそうなそぶりを見せていたが、④ではどういった様子だったか読み取らせる。 問五 ⑤の後の部分で、起きろと言われていることに対する信太郎の気持ちが描かれていることに注目。 問六 直前の部分に着目させる。 問七 ⑦の後に、祖母は「ため息」をついている。どういった場合に「ため息」をつくか考えさせる。 問八 ⑧の次の段落に着目。祖母は信太郎に何を期待したのか、読み取らせる。

板書例

③

- ・登場人物 因島で暮らす千波 里子の弟 大地 父 作治 母 のぶ子
- ・プロレスごっこをする大地と作治：大地 目をきらきら 楽しそう
- ・千波 ファンレターの最初の書きだしが思いつかない ↓ 台所へ
- ・トランプを手にした大地につかまる
- ↓ 勝つまでゼツタイにやめようとしないう ↓ 「一回だけで」 ↑ 家族団欒もアリか
- ・ゲーム終盤、僅差で千波は勝利した
- ↓ 大地がべそをかきだしたので、作治がしきりに目くぼせをした ↓ 無視
- 「一回だけで」といったはずの千波が夢中になった ↓ なんだかんだ 楽しかった
- ↓ 大地がいなかったら、両親と三人でトランプなんてまずしない
- ↓ 大地がいてくれるからこそ 家族団欒

②

① 話題の提示  
 生物がからだの中に時計をもっていることを示す実験  
 ミツバチの場合

② 二十世紀初め 「ミツバチは時刻を知っている」  
 ベリリングさんの実験 「ミツバチは時刻がわかることが判明」  
 時刻学習

④ ベリリングさんの実験 「太陽の位置・温度・湿度」  
 ベリリングさんの実験 「空気を伝える電気」  
 ヴァールさんの実験 「宇宙線」

これらから時刻を知るのではない

⑦ レンナーさんの実験 ↓ 「からだの中の時計」  
 レンナーさんの実験内容

⑩ ミツバチの時刻学習 からだの中に時計がある

①

もうすぐ三十歳になる私は本屋で働いている。  
 私の仕事 本をさがして来店するお客さんの本をさがすこと  
 書名、著者名、出版社をはっきり覚えていない場合  
 ↓ コンピュータと人脈を駆使してお客さんがさがしている本を見つけ出す  
 おばあちゃんがさがしていた本 「定食屋の娘」というエッセイ  
 ↓ 定食屋の娘 おばあちゃんに違いない ↑ おばあちゃんがなぜ本をさがしていたか  
 絵画のように切り取られた若き日の自分  
 永遠にそこに切り続ける十代の自分と家族と家 私 知った気がする  
 大学のそばの本屋で三冊買った  
 ↓ おばあちゃんはきつとよくやつたと言ってくれたと思う  
 本を手に入れることができてほっとする気持ち

ページ・問題番号	問題	指導内容・留意事項など
① (P124)	問一	①のある段落に「私」について書かれているので、そこからあてはまる言葉を抜き出させる。
	問二	46行目にわたしがおばあちゃんが定食屋の娘であると気づき、次の段落で情景が描かれているので、その部分からまとめさせる。
	問三	倒置法…語順を逆にして印象を強める 比喩…何かにとえることによって印象を強める 体言止め…行の終わりを体言で止め、余韻を残す
	問四	直喩は「彼は鬼のような男だ」が明喩であるのに対して、暗喩では「～のように」を用いず「彼は鬼だ」と表現する。
	問五	本文に書かれていないことは誤りで、主人公が本文でどのような気持ちであったかを確認させる。
② (P126)	問一	①の内容をまとめさせる。
	問二	① = 前の文の内容の「結果」 = 「それで」 ② = 対立する内容 = 「それで」 ③ = 話題を付け加える = 「それで」
	問三	実験の結果を説明している部分を探させる。「つまり」に注目。
	問四	指示語の指示する部分の最も多いパターン = 直前の部分に注目。
	問五	(1)段落に登場する名前に注目。 (2)② = ③、⑤ = ⑥の内容から○と判断させる。
	問六	⑨に注目。
	問七	文章の要旨は最後の部分にまとめられていることが多いことに注意。
③ (P128)	問一	それぞれの擬態語がどんな様子を表しているかを考えさせる。
	問二	①の前後に書かれている千波の心情を読み取らせる。1箇所だけから読み取るわけではないので注意させる。
	問三	擬人法…人間ではないものを人間のようにたとえること。
	問四	②のあとに書かれている大地の様子に注目させる。
	問五	③のあとの千波の心情に注目させる。
	問六	各選択肢に2つの人物像が含まれているので、本文に書かれていないものは線を引かせるなどしてわからせる。

☆指導のポイント☆

- (1) 形式段落→要点をつかむ
- (2) 意味段落に分ける→「形式段落」の各段落の要点をつかむ→意味のまとまりで区分  
→文章全体の「まとめ」の段落を見つける→提示された「問題」や「話題」＝「まとめ」の関係を明確→要旨

板書例

<p style="text-align: center;"><b>練習問題 1</b></p> <p>形式段落②～⑨ ↓ 「リス」の仲間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ムササビ」はリスの仲間</li> <li>● 食物をもとめて多様な環境に進出</li> <li>● 強力な前歯</li> </ul> <p>形式段落⑤・⑥ ↓ 「ムササビ」の体が大きい理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 栄養価の少ない葉で生きる</li> <li>● 代謝のスピードをおとす</li> <li>● 体を大きくする</li> </ul> <p>形式段落⑦～⑩ ↓ 粗食の動物の進化</p> <p>↓ コアラ・ナマケモノ ↓ 葉食動物</p> <p>↓ 怠け者化</p>	<p style="text-align: center;"><b>基本問題 2</b></p> <p>形式段落①</p> <p style="text-align: center;">話題の提示</p> <p>↓ チンパンジーの知性の深さ</p> <p>↓ 「自分の認識」という点述べる</p> <p>形式段落②～⑨</p> <p style="text-align: center;">「人」の場合</p> <p>   三歳ころ</p> <p>   ほとんどのこどもが鏡に映る自分を認識</p> <p>「ルージュ・テスト」</p> <p>形式段落⑩</p> <p style="text-align: center;">「サル」の場合</p> <p>「チンパンジー」の場合</p> <p>   歴年齢でみると「人」と同じ</p>	<p style="text-align: center;"><b>基本問題 1</b></p> <p style="text-align: center;">話題</p> <p>形式段落①</p> <p>形式段落②</p> <p>   丁寧語</p> <p>   相手との距離によって使い分ける</p> <p>   距離をおきたいとき使う「丁寧語」の例</p> <p style="text-align: center;">丁寧語の意味</p> <p>形式段落③</p> <p>「丁寧」という漢字</p> <p>形式段落④</p> <p>「丁寧」の意味</p> <p>   「兵士にとっての安心」の意味</p> <p>形式段落⑤</p> <p>兵士の「防災無線」</p> <p>形式段落⑥</p> <p>「人の安心」</p> <p>   「丁寧」</p> <p style="text-align: center;">「まとめ」</p> <p>形式段落⑦</p> <p>人間関係の距離</p> <p>形式段落⑧</p> <p>「相手との距離」</p> <p>↓ 「ちよつとある」</p> <p>   丁寧語</p> <p>形式段落⑨</p> <p>「相手との距離」を知って「自分の考え」を伝える</p> <p>↓ そのために「敬語」を知る必要</p>
---	--	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p><b>基本問題 1</b> 定番 (P134) 問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p>	<p>直前の部分を説明＝「つまり」</p> <p>「タメ口」という語に注目。形式段落⑧に注意。形式段落②から「見知らぬ人」には使えない言葉ということを読み取らせる。</p> <p>「その答え」は形式段落⑤に述べられていることに注目。</p> <p>「相手との距離」とは自分と話している相手との人間関係の位置から決まるもの本文中の「人と人」との関係の「いろいろな距離」という点から内容を簡潔にまとめさせる。</p> <p>「形式段落①・②＝「問題提示」、形式段落⑦・⑧・⑨＝「まとめ」」に着目。</p> <p>「形式段落⑦・⑧・⑨＝まとめ」のなかで中心的な段落として形式段落⑨に注目。</p>
<p><b>基本問題 2</b> (P136) 問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p>	<p>年齢別の子どもの対応の様子が形式段落ごとにまとめられていることに着目。</p> <p>「ルージュ・テスト」の内容を説明している形式段落⑦・⑧に注目。</p> <p>☑ の直後の部分に注目。</p> <p>「チンパンジー」について述べられている部分に着目、形式段落⑩に注目。</p> <p>文章全体の「まとめ」は多くの場合、文末にあることに着目。形式段落⑩～⑬に注目。</p>
<p><b>練習問題 1</b> (P138) 問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p>	<p>形式段落③に注目。</p> <p>くり返し使用されている語に注意。</p> <p>形式段落①～④＝「リスの仲間」 形式段落⑤・⑥＝「ムササビ」</p> <p>形式段落⑦～⑩＝粗食で「体」を大きくした「動物の例」</p> <p>「ムササビ」について述べられた形式段落⑤・⑥に注目 ☐ C については「ムササビ」を含めた動物についてまとめた部分に注目。</p>

# 12

## 説明文・論説文 筆者の考えと根拠

▼指導ページ P 146～159▼

☆指導のポイント☆

(1)「筆者の主張・考え」と「説明するための事実」を区別

●「筆者の主張・考え」

①「キーワード」＝くり返し使われている「ことば」に注意。

②「接続語」や「文末表現(～思います)」「<私の考えは～だ>などの表現」に注目。

●「説明するための事実」→①「接続語」に注目。②具体的な数値に着目。

(2)「対比」→「時代・時期」「国・地域」「生活・社会の環境」などに注意。

### 板書例

<p><b>練習問題 1</b></p> <p>【話題】場の空気を読むということ</p> <p>【空気】とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 話の流れ＝「文脈」</li> <li>● 発言している人の「気分」</li> </ul> <p>筆者の考え</p> <p>「場」の空気→コミュニケーションに強かかわる</p> <p>↓リーダーシップ＝「場」の空気を読む力がもたらされる</p> <p>＝積極的に雰囲気を感じとる受動性</p> <p>↓「場」の雰囲気をつかむ感知力を高めることが大切</p>	<p><b>基本問題 2</b></p> <p>話題にみちびく＝大学に行く↓馬鹿になる＝身体を使って働く人のことば</p> <p>【話題】教育の問題＝応用がきかない</p> <p>筆者の考え＝情報化社会が原因</p> <p>【説明】「情報＝固定」・「人間＝生きている・動いている＝変化」</p> <p>↓「情報をあつかい」＝「動きを止めて整理」＝「学問」</p> <p>↓「教育」＝「生きている・動いている」人をあつかう</p> <p>↓「情報化社会」の人＝「教育」が得意ではない</p> <p>筆者のいいたいこと</p> <p>＝「情報化社会」↓「生きている＝人」を忘れてはいけない</p>	<p><b>基本問題 1</b></p> <p>筆者の考え＝論理＝時代によって変化</p> <p>筆者体験＝「正しさ」が変わる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学生のころ＝工場が動いて、煙突から煙をたくさん出す</li> <li>＝加工貿易の日本の工業＝正しい</li> <li>● 中学生のころ＝公害が大きな問題となる</li> <li>＝オイルショックで高度経済成長期が終わる</li> <li>● 高度経済成長期が終わった後＝環境をまもろう</li> <li>＝工場が煙をたくさん出すこと＝よくない</li> </ul> <p>←</p> <p>今日＝「スーパーのビニール袋・牛乳パック」の話</p> <p>パラダイム・チェンジ</p>
---	--	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 問一 (P148)	(1)小学生の時の記述部分に着目。20行目注目。(2)接続語＝「ところが」＝22行目注意。
問二	(3)9～42行目＝43行目に別な表現でまとめている。
問三	直前の部分に注目。
基本問題 2 問一 (P150)	最初に「説明することがら」が示されている。形式段落①に注目。
問二	直後に注目。「意味」という語に注意して説明している箇所を探させる。
問三	②は「ものごとは変わらない」と考えている人を表すことばとして使われていることを読み取らせる。40～42行目着目。
問四	③＝「患者を検査した結果」＝「情報」ということを読み取らせる。
問五	「生きた」＝「変化」に注目。「変化していくものに対応できない」＝「学問」「医学」。
問六	「情報」＝「固定」↔「人間」＝「生きている」＝「変化」。
練習問題 1 問一 (P152)	4・5行目に注目。
問二	「一つは～」「もう一つは～」と並べて説明していることに着目。
問三	「身体」「雰囲気」に注目。
問四	リーダーシップとはどういうことか直前の部分から読み取らせる。
問五	⑤の直後の段落に着目して内容をまとめさせる。
問六	形式段落③に着目。「場」の空気を読む人は「発言」内容よりも「気分」に注意するということを読み取らせる。

# 13

## 随筆文 筆者の経験と感想

▼指導ページ P 160～173▼

☆指導のポイント☆

- 随筆文＝筆者の体験などについて、意見や感想を記述＝形式にとらわれない。
- 「事実」と「筆者の感想・考え」を読み分ける→主題を読み取る。
- 随筆文の種類＝生活文風、論説文風、紀行文風、物語・小説風
- 筆者の特有の個性的な表現を読み取る。

板書例

**練習問題1**

【話題】＝筆者の子ども時代の教育

- 天孫降臨の教え
- ↓(筆者)内容に疑問をもたない
- いろいろな見方や考え方を教えたいと考える教師
- ↓(筆者)好奇心・知識欲＝ない
- アツツ島の玉碎
- ↓(日本の兵隊)自分が捕虜になる↓日本の家族が「社会」で生きられない
- ＝「社会」全体が教育されていた
- ↓(筆者)戦後に本当のことを知る

筆者の考え＝かたよった見方・考え方の人や社会をつくってしまう教育＝恐ろしい

**基本問題2**

●筆者の子ども時代の不安＝頭＝あまりよくない

小学生のとき＝本を読まない

中学三年生のとき＝本を読まないから頭がよくない、という思い

↓教科書で「寺田寅彦」の「科学者とあたま」を読む↓おもしろい

↓「頭がよくない」ことが気になって、不安になっていた自分に自信

↓◎「ものの見方」＝いろいろある

◎ 比喩を使った表現方法

学生るとき＝「寺田寅彦」の全集を読む＝自分のものにする

↓知的な世界への入り口

陸軍＝「頭がいい」といわれてうれしい↓力づけられた

**基本問題1**

●筆者がお友だちから聞いた「お父さん」の話

家庭の中で孤独

↓金魚を飼う

＝金魚を優しくあつかう＝うれしそう

出目金の死

＝ため息↓気分がしずんでいる様子

↓金魚が「お父さん」の心の支え

＝小さな生き物↓大きな存在

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など	
基本問題1 (P162)	問一	身体の一部を使った慣用句を整理させる。
	問二	(1)場面が転換するところに注意。41行目に注目。 (2)前半は金魚をかわいがる「お父さん」の様子。後半は出目金が死んだことへの「お父さん」の態度。 (3)「友だち」が筆者に話した言葉に注意。その直後に「友だち」の気持ちが描かれている箇所を見つけさせる。
	問三	「定年退職」とは「お父さん」のどういった状況か、を推量させる。
	問四	「お父さん」が金魚を飼うときの状況を読み取らせる。4行目に注目。
基本問題2 (P164)	問一	直後の文に着目。
	問二	直前の箇所から「この先生」の言ったことは正しいかたことを読み取らせる。
	問三	(1)(2)「影響」ということばに着目。48～57行目に注目。
	問四	文章全体から、「話題」の中心となっていることがらを表す語を探させる。
練習問題1 (P166)	問一	①の内容を説明している部分15～17行目に注目。
	問二	直後で筆者が教師の処分について推量する箇所に注目。
	問三	「子」という語に注意して③を言い換える表現を見つけさせる。37行目に注目。
	問四	本文に取り上げた題材から、「教育」によって「かたよった価値」の枠にはめられてしまうことへの恐ろしさが述べられていることを読み取らせる。

☆指導のポイント☆

- 「事実」と「筆者の感想・考え」を明確に読み分ける。
- 「筆者の感想」を述べた部分に「筆者の主張・意見・考え」があることに注意する。
- 多くの場合「主題」は文章の最初または最後の段落に述べられている。

板書例

**練習問題 1**

筆者と自然のかかわり

- 子どもの頃  
遊び場⇨野原・林⇨思い出⇨雑然・豊か⇨自然を「感じる」
- おとなになる  
散歩⇨図鑑を持ち歩く⇨知識が増える
- 友人と歩いた日  
友人のことばに自分の自然とのかかわりについて気づかされる

筆者の考え ⇨子どもの頃の気持ち⇨「自然」を「感じる」心  
⇨持ち続けよう

**基本問題 2**

【場面】⇨スコップを持ってまわりの雪を掘ってクマの巣穴を探し調査  
ぼく(ミチオ)・ステイプ・ジョンなど六人  
クマの巣穴を見つけ、クマに麻酔を打つ  
⇨三歳のクマ：母と別れて初めての冬ごもり  
発信機を取りかえ・採血・計量

麻酔が切れる前に、クマを巣穴に戻す

筆者の考え  
・春を待つクマ⇨野生に生きるもののかくわしさ(遠い野生の匂い)  
← 強い生命のたたずまい ⇨ 幸福感

**基本問題 1**

レノア姫の話

- 「月」を欲しがる⇨「月」について自分なりに理解
- 家来⇨レノア姫に「月」といって「金のメダル」わたす
- レノア姫⇨「金のメダル」⇨「月」と思う⇨「月」は再生する

筆者の考え

- レノア姫は自分の考えを持っていた
- 今日の子供たち⇨宇宙中継⇨見なれている  
⇨「レノア姫」と同じ⇨あたえられたもの
- 「レノア姫」の方が「一歩前進」⇨自分なりの論理⇨主体性

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 定番 (P176)	「まだしも」=2つのことを比べて一方の方が少しでもよいこと。 「たとえ」=もし、そういうことがあっても～の意味。「べつだん」=特に、そのことについて(～ない)の意味。 「なおさら」=さらにいっそう増えていく様子を表す語。「あたかも」=別なもので言い換えると時に使う語。 問一 『たくさん月』の部分と、筆者の考えを述べた部分を読み分けさせる。 問二 31～33行目に注目。 問三 レノア姫が「月」を観察するために行った方法をまとめて描いた部分=39～42行目に注目。 問四 直後の文の「差し出した」に注目。 問五 52～54行目に注目。
基本問題 2 (P178)	問一 冒頭だけでは、どんな場面がわからないので、何を探しているのかに気づかせながら読ませる。 問二 「～のような…」とあることから、何かを例えていることわかる。巣穴の中にそれがあることから気づかせる。 問三 それぞれどのような場面なのかわからせる。①は「足」、②は「軽い寝息」、③は「体毛」に対する表現である。 問四 ③の直後に注目させる。その後に「遠い野生の匂いと記憶を残そうとした」とあることから、読み取らせる。 問五 ④のある段落に書かれているので、そこをまとめさせる。 問六 主題はたいてい最後に書いてあるので、最後から2番目の段落から読み取らせる。
練習問題 1 (P180)	問一 「おとなになる」という表現に注意。場面の転換を読み取らせる。 問二 「記憶」という語から「ちいさい頃」の思い出に注目。 問三 図鑑を持って歩いた様子から推量させる。 問四 ③の直前の「今度」に注目。以前もさまざまな図鑑を持ち歩いていたと分かる。筆者と図鑑のかかわりを推量させる。 問五 筆者が収集していたデータは、草・木・鳥に関する「自然」のものであることから推量させる。 問六 本文の最後の部分62～67行目に注目。

板書例

① 人間はサルに退化しつつあるのではないか  
 人間：貧しい時代 → みなで共同で事にあたり、分けあって食べる  
 ↓ 豊かになる → 他人を思いやらずに、食べたいときにひとりで食べただけ食べる  
 ↓ 生き物としての本性 → サルに退化

● 自立 # 他人の力を借りずに、ひとりで生きられる  
 自立 → 支えあって他人とともに生きる(他人との相互依存のネットワークを使いこなす)  
 ← そのために

● 他人に細々と助けってもらいながら、その助けしてくれるひとを飲ばせて飲ぶことができる関係をうまく配置すること → 自立支援

② 【前半】 相手と意見が対立する場合 → 自分の意見 → 相対化  
 相手の話や立場 → 理解を示す「ことば」が大切 → 「確かに」「なるほど」  
 相手と自分の意見・考えの共通点をさがす → 自分の意見と違う視点に立つ

【後半】 人間関係 → 自分を相対化 → 客観的に自分を見る  
 ↓ 自分中心の考え方 → あらためる  
 ↓ 筆者の考える理想  
 → 相手の考え方を受け入れる → 自分の考えを主張する

③ 【場面】 → 家に子猫がくることになった  
 やってきた猫  
 ・ 痩せて骨張った小さな顔も子猫  
 ・ 稲妻のように壁際のソファの下へ逃げ込んだ  
 ・ 先ず人の手の届かない安全な場所を確保  
 ・ 食べ物で呼ぼうが、遊ぶもので誘おうが、飛び出してこない

ボンベ  
 ・ 気に入らなければ、御飯をくれる相手でも食いつく  
 ・ おいしそうなお魚 → 主人のお膳の上からでも失敬する  
 ・ 自分の食事をもらっていても人のお皿が気になる  
 ・ 子供の好きなチーズやウインナーは欲しくて堪らない

野良猫  
 娘 → 猫好き人間 → ボンベ → 家猫の顔付  
 白猫はどこかおとなしい感じがする  
 ← しかし

年を取って目がかすみ出した頃  
 ・ 胸にびったりと身を寄せて、ごろごろと喉を鳴らす  
 ・ 人も猫も同体の心の通う安堵感を味わった

← 十八年かけて持った信頼 → 胸打つもの → 感動

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
① (P188)	問一 ①の直前に「だから」とあることから、それまでの部分をまとめていることを分からせる。 問二 ②のある段落に皮肉だと作者が感じることが書かれているので、そこから判断させる。 問三 段落⑤は例がいくつか書かれているが、その中に筆者が言いたいことが含まれていることに気づかせる。 問四 段落⑤と⑥で話がどう展開しているかを考えさせる。 問五 文章の最初に振られている段落番号は形式段落なので、意味段落ごとにまとめて考えさせる。 問六 筆者の言いたいことがどの段落に書かれているかを分からせる。ここでは、段落⑥と⑦に書かれている。
② (P190)	問一 場面や話題を転換することばに注意。49行目に注目。 問二 ① = 対立する関係を示す語。 ② = 決定的な状況を示す語。 ③ = クラブ活動の「上手」という語から判断。 ④ = 筆者の考える最も望まれるあり方が直前に述べられていることから判断。 問三 46～48行目に注目。 問四 反対の態度とは、自分中心の考え方ということから推量する。 問五 筆者の考えをとらえるので、本文の最後の部分に着目。 問六 ④より後の部分で、相手と心を通じ合わせるための考え方が述べられている。「相対化」という語に着目して内容をまとめさせる。
③ (P193)	問一 相手と心を通じ合うためには、自分の意見を主張しない方がいいとは述べられていない。 問二 慣用句の意味がわからなくても、前の部分の下の娘の様子から判断させる。 問三 ②の前後に書いてある猫の様子から、字数にあてはまるものを見つけさせる。 問四 ボンベがどのような猫かをわからせて、選択肢に合うものを選びさせる。①は、「歯の跡が残った」とある。②は、「おいしそうなお魚は」から推測させる。③は、「チーズやウインナーは堪らない」とある。④は、ネズミを「連続六匹」から推測させる。 問五 それまでは人に馴れない野良猫魂があったように思えたが、娘に可愛がられて家猫の顔付きになったことから、③のある段落をまとめさせる。 問六 頻出のことわざなので、出来なかった場合は覚えさせる。 問七 18年かけて持った信頼とは何かをまとめさせる。

☆指導のポイント☆

- 意味段落の役割をつかむ＝中心的な意味段落を見つけて要旨をまとめる。
- 意味段落の役割＝①話題を提示する段落 ②例・根拠をあげて「話題」を「結論」につなげる働きをする段落 ③「結論・まとめ」の段落
- 文章の組み立ての3パターン＝結論を述べるパターン  
＝①先に述べる。 ②最後に述べる。 ③最初に明らかにして、最後に再び述べる。

板書例

**練習問題1**

地球は完全な球ではない

- ↓人工衛星のとび方によって地球の形を知る
- ↓南極・北極からおしつぶされた形⇨カボチャの形
- なぜカボチャの形をしているのか
- ↓遠心力が、赤道付近に強くはたらく⇨赤道付近が出っ張る
- ↓地球⇨やわらかい

最近の研究

- ⇨地球の内部にもちがい⇨表面に凸凹となって表れ

**基本問題2**

話題にみちびく

●ダーウインの採集の話

【話題】⇨人がものを「採集⇨コレクション」するわけ

【説明】⇨知り合いの七歳の女の子の話⇨幼児の気持ち

- ⇨「採集」⇨自分の知らない世界の一部分⇨自分のもの⇨知る試み

筆者の考え

- ⇨コレクション⇨教育的なはたらき
- ⇨子どもにとって最初に身につける勉強法

**基本問題1**

話題にみちびく

- ナポレオン・エジソン⇨短眠
- アインシュタイン⇨長眠

【話題】⇨睡眠時間が人には差があるのはなぜか？

- 一日8時間が決まりごとのようにいわれる理由

睡眠⇨まわりの環境に適応するための技術⇨多様性

筆者の考え

- 人がつくった基準⇨生物学的根拠はない
- 短眠・長眠⇨ノンレム睡眠の量は同じ

筆者の考え

- ⇨睡眠の持つ柔軟性⇨人による差は当然

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など	
<b>基本問題1</b> (P198)	定番問一	1 = 説明や条件をつけ加える。 2 = 当然の結果を示すもの。 3 = 対立する内容を示す。
	問二	「～でしょうか」という読者に問いかける表現に着目。
	問三	「睡眠 = 8時間といわれる根拠」について筆者の考えを説明している部分が意味段落の二つ目になる。
	問四	「条件」という語に着目。20行目注目。
	問五	長眠の特徴について述べている部分42・43行目注目。
<b>基本問題2</b> (P200)	問一	「話題提示」→「説明」→「筆者の考え」の流れを読み取らせる。
	問二	「～なのか」という筆者から読者への問題を提示している箇所注目。
	問三	16・17行目に注目。
	問四	形式段落7 = 27・28行目に注目 形式段落8 = 「秩序」「法則」という語に着目。
	問五	直前の文に注目。
	問六	「コレクション = 収集」という意味から本文の内容をまとめた文として45・46行目に注目。
	問七	「話題提示」→「説明」→「筆者の考え」の流れに着目。
<b>練習問題1</b> (P202)	問一	読者に話題をさらに提示している箇所に注目。形式段落5・8に注目。
	問二	1 = 対立する内容。 2 = 説明する文が後に続く。 3 = 当然の結果が続く。
	問三	(1)言い換えて「カボチャ」の形と表現。言い換える前の記述を探させる。 (2)形式段落8で遠心力が地球の形におよぼした影響について述べられている。
	問四	最近の研究でわかったことについての記述を注意して読み取らせる。62・63行目に注目。



☆指導のポイント☆

- (1)「主題」＝作品(物語・小説)で作者が描きたかったこと。
- (2)「山場」＝作品(物語・小説)で最も感動させる場面・情景・でき事。
- (3)「主題」と「山場」＝「山場」での「主人公」や「中心的な登場人物」の「表情」「会話」「行動」に「主題」が含まれる。

板書例

<p><b>練習問題 1</b></p> <p>場面Ⅱ夏期講習中、聡子と霧島くんが話している</p> <p>夏期講習の間、お互いの苦手な科目の問題集を交換するⅡハッピーノート</p> <p>【霧島くんの気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ふたりがいっしょにいるところを見られたくない</li> <li>●ふたりでいるところを誰かに見られてもいい</li> <li>●塾でも聡子を気にかけてくれるⅡすぐくうれしい</li> <li>↓霧島くんのことが好き</li> </ul> <p>【聡子の気持ち】</p>	<p><b>基本問題 2</b></p> <p>場面Ⅱ刑場の前・フィロストラトスと出会う</p> <p>【メロスの気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の走る理由Ⅱ「信じている」から走る</li> <li>↓命より「大切なもの」「大きなもの」のために走る</li> </ul> <p>場面Ⅱ刑場の中・セリヌンティウスの所</p> <p>【メロスの気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●セリヌンティウスへ↓一度だけ裏切ろうとした心を持った</li> <li>↓すまない気持ち</li> <li>●セリヌンティウスから↓メロスを一度疑う気持ちをもった</li> <li>↓メロスにすまない気持ち</li> <li>●たがいに信頼を取りもどしたい</li> </ul> <p>場面Ⅱ暴君ディオニスが二人に近づく</p> <p>【暴君ディオニスの気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●考え方の間違いを認める↓「信じ合える」仲間に加えてほしい</li> </ul>	<p><b>基本問題 1</b></p> <p>場面Ⅱ「祖母」の仏壇の前</p> <p>【初音の気持ち】Ⅱ「祖母」の死↓実感として感じられない・死んでも仕方がない</p> <p>Ⅱ「自分」は冷たい</p> <p>場面Ⅱ仏壇に髪留めを見つめる</p> <p>(祖母の棺桶にいったと「初音」が思っていたもの)</p> <p>【初音の気持ち】Ⅱ(髪留めがあったので)おどろく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>↓「祖母」が自分を特にかわいいと思っていたことを知る</li> <li>とまどい</li> <li>↓「祖母」の死が実感となるⅡかなしい</li> </ul>
--	---	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p><b>基本問題 1</b> (P212)</p> <p>問一 問二 問三 問四</p>	<p>「おばあちゃん」の死に対する「初音」の気持ちを「初音」自身が述べている部分を探させる。</p> <p>「タカちゃん」の最後の会話に注目。</p> <p>「タカちゃん」の会話から「初音」を特にかわいいと思っていた「祖母」の気持ちを推量させる。</p> <p>「初音」は「タカちゃん」から「祖母」の自分への気持ちを聞かされて、どういう気持ちになったか考えさせる。</p>
<p><b>基本問題 2</b> (P214)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六</p>	<p>「メロス」が間に合わなければ「セリヌンティウス」はどうになってしまうのか、弟子の会話から読み取らせる。</p> <p>②の直前の部分の「メロス」の会話に注目。キーワードは「信じる」こと。</p> <p>刑場に入った後「メロス」と「セリヌンティウス」に「なぐれ」と言った会話の部分に注目。</p> <p>暴君ディオニスは自分の考えの間違いを認め、「信じ合える」仲間に入れてほしいという意志を表していることに着目。</p> <p>この物語のキーワードは「信じる」。</p> <p>「信実」＝「正直なこと」。主題は「義務を果たすこと」ではなく「人を信じること」の「大切さ」。</p>
<p><b>練習問題 1</b> (P216)</p> <p>問一 問二 問三 問四</p>	<p>①の直後に「それは」とあるところに注目させる。ハッピーノートの内容がどのようなものかを理解させる。</p> <p>②の前後から、霧島くんの行動にあたる部分を見つけさせる。</p> <p>設問に、「どんな気持ち」(＝主題)とある。③の直後に聡子の気持ちが書かれていることに気づかせる。</p> <p>物語で一番盛り上がる部分が一番最後の部分ということに気づかせる。</p>

☆指導のポイント☆

●詩の表現技法を具体的な問題を通して学ぶ。

①詩にもちられる特有の表現を「手がかり」に感動の中心をとらえることで主題をみつけだす。

②強く感動した部分や主題に、作者はさまざまな表現技法を使用して、表現を工夫していることに注意をむける。

板書例

**基本問題1**

【第一連】 作者から「山」への問いかけ  
 比喩(隠喩)うす緑→ようふく  
 擬態語→ふるふる

【第二連】 「山」の答え  
 擬態語→ちよろちよろ・もこもこ  
 擬音語→ごそごそ・かさこそ  
 最初→わらいをこらえる→春が始まった  
 最後→大きな声→春が来たことをおおいによるこぶ

【第三連】 「春」が来たことをつげる

**基本問題2**

【第一連】  
 丘から「畑のしごと」をしているときに、自分の家をながめる  
 ↓「ぼく」の家にだけ明かりがつかない→不安  
 ↓「みわ」「ゆうこ」への問いかけ  
 →「おかあさん」→「病気」か? 「お使い」か?  
 【第二連】 反復  
 丘から「畑のしごと」をしているときに、自分の家をながめる  
 ↓村の家に電気がついていく→比喩→花(月見草)  
 ↓「ぼく」の「小さな家」→明りがつかない→不安がおおきくなる  
 ↓家に走ってもどる→家族を思う気持ち

**練習問題1**

動かない→樹→生きている

← 足をふんばる→根をはる  
 胸をふくらませる→幹が太くなる  
 腕をのばす→枝をひろげる→多くの年数を生きてきた

← 春夏秋冬→人と同じ思い  
 ↓冬→春にむかって生命→内側に息づいている

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P226)	「現代語」を使っている。「定型」ではない。 第1連で山に呼びかけていることから判断。 第2連で雪がとけることや、第3連で春がきたことが描かれていることから、「うす緑」=「若葉」と推量させる。 冬から春になって、生命の活動が始まっている様子をとらえさせる。 「みんな」に注目。山にかかわっているすべての生命やものが動き始めている様子をとらえさせる。 第2に注目。擬態語・擬音語の示す語句に注意。 こらえた笑いと大声での笑いを読み分ける。 第3連に注目。 山の様子を描くことで、作者の気持ちを歌っている。
基本問題2 (P227)	問一 9・10行目から「みわ」「ゆうこ」は年齢が幼いことがわかる。さらに7行目「おかあさん」から「父」または「兄」と推量させる。 問二 15行目からおだやかな情景を推量させる。 問三 畑仕事によって暮らしをしている生活の様子や家族を思いやる様子から推量させる。
練習問題1 (P230)	問一 次の行の表現から推量させる。 問二 直後の語や表現から樹の様子を想像して季節を推量させる。 問三 樹の形状「足」「胸」「腕」が何を指しているかを推量させる。 問四 紅葉した葉は冬になるとどうなるかを推量させる。 問五 「腕」=「枝」から「指さき」=「枝の先」と推量させる。 問六 第2連に着目して、樹の中にあるものを想像させる。 問七 春にむかって「樹の内側=芯」では生命の準備がすすめられていることをとらえさせる

☆指導のポイント☆

- 「表現技法」が詩ではどのように使われているかを確認する。
- 「表現技法」がどのような「効果」をもたらすかをとらえる。

板書例

**練習問題 1**

【第一連】 紫大根の花 || 知らない間に咲いていた  
(倒置) ● 「主語と述語」

【第二連】 紫色の花  
(体言止め) ● 「紫」

【第三連】 私は知らない || 「花」はうつくしく咲く  
(擬人法) ● 「見せる」

【第四連】 雑草の花 || 孤高・気高い  
(擬人法) ● 「自分自身」 ● 「おくる」

**基本問題 2**

【第一連】 || 幼い子どもの一日  
(比喩) ● 隠喩  
(くり返し) ● 「くて」 || 反復 || 詩全体にリズム感

【第二連】 || 成長 || すこしずつ  
(対句) ● 「よる」 ↓ 「あさ」 ● 「ねむる」 ↓ 「おきる」  
(くり返し) ● 「くりかえし」

【第三連】 || おとなに成長 ↓ 出会いと別れをくり返す  
(対句) ● 「であい」 ↓ 「わかれ」  
● 「たのしさ」 ↓ 「かなしさ」

**主題** 時間・人との関係をかさねる ↓ 「子ども」が「おとな」に成長

**基本問題 1**

● 直喩 || 干した麺の「ような」

● 隠喩 || 「虹」 ↓ 「足」 「アーチ」

● 擬人法 || 「足」 ↓ 「下ろす」 「置く」

● 倒置 || 通常の語の順序にしない

**詩の内容**

村の人々 || 虹を見ようとするとする人がいない || 虹が見えない  
バスの乗客 || 虹に感動 || 虹が見える

**作者の思い**

|| 「虹」 || 「幸福」 ↓ 幸福な人は幸福でいることがわからない  
↓ 身近に幸福はある || 気がつこう

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<b>基本問題 1</b> 問一 (P240) 問二  問三 問四 問五 問六 問七	「～みたいに」に注目。 [A] = 人ではない「虹」に足をつけるという表現 = 擬人法。 [B] = 「虹」の地上にむかってのびている部分を「～みたいな・～のような」という語を使わずにたとえる表現技法 = 隠喩。 [C] = 通常ではない語の順序に置き換えている = 倒置法。 6行目に注目。 8・9・11行目に注目。 作者の推測が述べられている20・21行目に注目。 22行目に注目。 22～26行目の部分に着目。
<b>基本問題 2</b> 問一 (P241) 問二 問三 問四	「～のような(に)」を使用しない比喩表現。 「1日の経過を描いた部分」・「日数の経過と身体の成長」・「日数の経過によるおとなへの成長を描いた部分」の区切りをとらえさせる。 「口語詩」・「語数の定型にしたがわない」 くり返し使われているキーワードを見つけさせる。11・16・17・22・23行目に注目。
<b>練習問題 1</b> 問一 (P244) 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八 問九	[1] = 通常の語順ではない。 [2] = 7行目 = 体言でおわっている。 [3] = 「花」を人のように表現。 場所を表す語を前の「連」から探させる。 直前の部分8・9行目の内容を指していることをとらえさせる。 直前の「さえ」に注目。当然気がつくと思われることも忘れていたことを読み取らせる。 つづく表現から雑草の花の咲く状況を読み取らせる。 「自分」に微笑みをおくるということから、自分の力を自分で認めていることを読み取らせる。 紫大根の花を含めた草を表現している語を探させる。13行目に注目。 「紫大根の花が咲く様子を表す部分」と「紫大根を含む雑草の生き方についての作者の感想」の部分に分けられる。 作者の関心は「雑草の花が人の目にふれなくても美しく咲く様子」にむけられていることから推量。

板書例

**1**

【話題】 || おいしいお店にできる行列

- 「能書き」 ↓ グルメ || 興奮 ↓ 「行列 || 苦痛」に耐えられるか判断
- 事前情報 || 「体験」による情報 || 「行列」に加わる気持ち ↓ 後押し

←

● 脳の「ドーパミン神経」 || 興奮

- ↓ おいしいものを食べたい気持ち || 高める
- ↓ 「行列」を作っても食べたい
- ↓ 「行列 || 困難」 || のりこえて食べた料理 || おいしい

←

【筆者の考え】 || 行列を作ること || 一番のおいしい食べ方

**2**

場面 || 「母」の病気が悪く修学旅行に行けないかもしれないという話

- 「ぼく」の気持ち || ふてくされる || 「胡桃」が割れない

場面 || 修学旅行に行くことができた

- 「ぼく」の気持ち || 自分勝手に反省 || 「胡桃」を割ろうとしない

場面 || 「母」の死・「姉」の縁談・「桂さん」が家に姉の代わりに来る

- 「ぼく」の気持ち || さびしい「悲しみに似た感情」

形だけにこだわる大人への不信

場面 || 一周忌の夜

- 「ぼく」の気持ち || 「胡桃」が割る || 胸のすくような感触
- || 「ぼく」のこころの成長

**3**

【詩・海】 ● 少年 || 海に呼びかける || 楽しい

- おとな || 海の「こたえ」を待つ

←

「子どもたち」 || 遊び || 行為そのものを楽しむ

「おとな」 || お返し・返事を期待 || 遊びそのものを楽しめない

←

「おとな」 || さびしい

←

【詩】を書く ↓ 気づき || 心のあり方の発見

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p><b>1</b> (P252)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七</p>	<p>直前の文に注目。</p> <p>直前の例に共通する情報の性質を見つけさせる。</p> <p>直前の部分の「ドーパミン神経」に注目。</p> <p>欲求を高める条件を読み取らせる。</p> <p>「やみつき」 = 「あることに熱心になって心が奪われ、そのことがやめられなくなること」</p> <p>⑥の様子を別な表現で言い換えている部分を見つけさせる。</p> <p>「行列を作る」から「おいしい食べ方」につながる話の展開を整理させる。</p>
<p><b>2</b> (P254)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六</p>	<p>1 = 答えないで席を立った様子から判断させる。 2 = 「見る」動作を説明する語を選択させる。</p> <p>3 = 直後の「投げこむ」動作から語を選択させる。</p> <p>4 = 「立った」 → 「かけ上がる」の動きから判断させる。</p> <p>5 = つらねたふとんの様子を説明する語を選ばせる。</p> <p>問二 「母の具合が悪いこと = 死」の実感がない「ぼく」の気持ちを推量させる。</p> <p>問三 母の病気が重いにもかかわらず、自分の旅行に行くことができないことに「ふてくされている」ことから、その性質を考えさせる。</p> <p>問四 「自分だけの姉」から「他の人の妻としての姉」になる = 「ぼく」の気持ちを読み取らせる。</p> <p>問五 嫁いでいく「姉」にかわって「家」に入るとは何を意味するのか推量させる。</p> <p>問六 「胡桃が割れない」 → 「胡桃が割れた」 = その前後における「ぼく」のこころの変化を読み取らせる。</p>
<p><b>3</b> (P256)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六</p>	<p>(1) 「～する」ことだけが楽しい = 「子どもたち」の様子から判断。(2) 解説文の16・17行目に注目。</p> <p>(1) 「表現技法」を確認させる。(2) 「おとな」の対応を読み取らせる。解説文の22行目に注目。</p> <p>「お返し」をすべてのことへのぞむ気持ちについて述べられている解説文の30行目に注目。</p> <p>直後の強く「のぞむ」から推量。</p> <p>「子どもたち」の「行為」についてまとめさせる。</p> <p>「見えてくる」 = 「発見」に注意。解説文の40行目に注目。</p>